令和7年度　港区立中之町幼稚園経営計画

港区立中之町幼稚園長　酒井　正美

1. はじめに

港区立中之町幼稚園は、明治23年5月に開園し、令和7年度に135周年を迎える。地域に愛され、見守られながら長い歴史と伝統を育んできた園である。

新園舎、新園庭での生活も1年半経ち、教育活動も軌道にのってきたところである。令和7年度は1学級増え、年少・年中組 2 学級、年長組1学級の全5学級、計93 名の在籍である。

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な時代となっている。このような時代を生き抜き、未来を切り拓いていく幼児を育てるために、幼稚園教育要領では幼稚園教育で育みたい3つの資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が明記されている。幼児期の教育の基本である「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」を日々実践し、持続可能な社会のつくり手となるべく、困難や挫折に向き合い乗り越えるたくましさ、様々な変化に柔軟に対応できるしなやかさのある幼児を育成していく。また、港区教育ビジョンを具現化するため策定された「港区学校教育推進計画」に示されているめざすべき子どもの姿「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」を育成するために、

〇幼児が安全で安心して過ごすことができる幼稚園づくり
〇幼児がいきいきと楽しく学ぶことができる幼稚園づくり
〇保護者や地域に信頼される幼稚園づくり　を目指していく。

2. めざす幼稚園

<教育目標>

げんきな子　　かんがえる子　　なかよくする子　　がんばる子

<目指す幼稚園像>

幼児がたくましく、のびやかに、いきいきと育つ幼稚園
―自分が大好き、友達が大好き　みんな笑顔の幼稚園―
〇幼児がいきいきと主体的、意欲的に遊びや生活を作り上げていく幼稚園
〇異年齢・地域・赤坂学園とのかかわりを通して育ち合うことができる幼稚園
〇135年の伝統を大切にしながら、変化に対応し、よりよい保育を目指す幼稚園
〇保護者と幼児教育の大切さを共有し、共に子育ての喜びを感じられる幼稚園
〇地域や園内の魅力を生かした遊びと生活を展開する幼稚園
〇共に学び高め合い、連携のとれたチーム保育を行う教師集団のいる幼稚園

<目指す幼児像>

3歳児…基本的な身の回りのことが自分でできる喜びを感じられる幼児・安心感をもってのびのびと自分の思いを表し、遊ぶことを楽しめる幼児
4歳児…自分のしたい遊びを見付けて繰り返し取り組み、楽しさや満足感を味わえる幼児・自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いを受け止めたりしながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえる幼児
5歳児…目的をもって粘り強く遊びに取り組み、思いや考えを実現する満足感を味わう幼児・友達と互いの良さを認め合いながら、共同して遊びや活動を進める楽しさややり遂げる達成感を味わえる幼児

3. 中期的目標（令和7年度～9年度）

〇育みたい資質・能力の3つの柱に沿った幼・小中一貫した教育の推進
幼児の未来を見据え、幼児期にどのような体験が必要なのか改めて考えるとともに、幼稚園で育まれた資質・能力を小学校へ引き継いでいけるようにする。育ちを共有できるように小学校との連携を密にするとともに架け橋期の教育の充実を図る。

〇新中之町幼稚園としての教育活動の確立
新園舎、新園庭全て整った環境での教育活動が2年目を迎える中、園庭や屋上の使い方や活動の仕方は試行錯誤を繰り返す状況である。自然環境のつくり方、ビオトープの活用の工夫等、近隣施設の利用など新しい環境が十分に生かせるよう、新中之町幼稚園としての基盤をつくる。

〇保護者・地域と協働し、愛され信頼される幼稚園づくり
135年の歴史の下、地域には卒園生や古くからの協力者が多数居住されている。学校運営協議会制度を生かし、地域コーディネーターを中心に地域の教育力や人材を存分に活用し、保護者・地域との協働体制をさらに深めていく。

〇専門性の向上を目指し、教育に情熱と使命感をもった教職員集団の育成
一人ひとりの教員が自らの目標を明確にもち、専門性の向上を目指して前向きに職務を遂行し、互いに資質を高め合える教職員集団を育てていく。

4. 今年度の取組目標と方策

〇意欲的に体を動かすことを楽しむ幼児の育成
「意欲的に遊ぶ幼児を育てる　～豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助～」を主題に、東京都教育委員会体育健康教育推進園及び港区教育委員会研究奨励園として保育公開、研究発表会を実施する。園庭の環境の工夫、固定遊具や可動遊具の使い方、場所の使い方、活動の選択、動線などを考慮し、幼児が体を動かしながら生き生きと安全に活動できるようにする。また、設置されたボルダリングを好きな遊びの中で体験できる機会を増やし、楽しんで活用できるようにする。

〇国際理解教育の基礎としての幼稚園
日本の文化や伝統的な行事を経験し親しみをもつようにする。日本語のおもしろさや美しさに気付くようにし、言葉に対する感覚を豊かにしていきます。
ネイティブティーチャー配置による英語活動実施2年目を迎える。日常の遊びの中でネイティブティーチャーに親しむとともに、手遊びや絵本、ダンスなどを通し英語に触れる機会を計画的に設ける。ネイティブティーチャーや外国の人との関わりを通して、様々な国の文化や言葉に関心がもてるようにしていきます。

〇赤坂アカデミーの連携の強化
赤坂アカデミーの連携を大切にし、保護者にも連携の様子を発信し、地域で教育を受ける意義を感じ取れるようにする。また、学校教育全体を貫いて明確化されている育成すべき資質・能力を理解し、架け橋期の教育の重要性の認識を小学校教員と深め、架け橋プログラムを活用、実践していく。

○地域の施設や教育力を生かす

幼児、保護者が地域の方への感謝の気持ちをもち、地域への愛着を感じられるように地域コーディネーターとの連携を深め、地域の人材を活用した活動を大切にしていく。また、隣接する檜町公園や東京ミッドタウン内広場、赤坂学園などの施設を有効利用し、幼児にとって豊かな体験ができるようにする。また、様々な運動体験ができるようタグラグビーや体操、バランスボールなどの講師を招聘し多様な活動ができるようにする。

○子育ての楽しさ、喜びを感じられる保護者へ

保育参観や保護者会、懇談会などを利用し保護者に園の教育内容を伝え、幼児の成長を知らせるとともに、保護者が子育ての楽しさや喜びを感じられるようにする。また、園便り、学級便り、ホームページ、X、スマホアプリ「コドモン」などを活用して、家庭では見えにくい幼児の生活の様子を写真や説明で丁寧に伝えていくようにし、遊びの重要性や遊びから学んでいること、幼児期に必要なことなどを理解してもらえるよう発信に努める。

○3年間の見通しをもった指導内容の充実した幼稚園に

3年間の成長を見通し、各年齢で必要な経験内容を確立し、既存の指導計画を新園舎新園庭バージョンに加除・修正していく。環境の使い方、行事の在り方や実施方法の改善等、全教員によるカリキュラム・マネジメントを行い、次年度の教育課程に生かす。

○チームとしての教職員集団つくり

園長自身、教職員と日常的にコミュニケーションを十分にとり、相談や話がしやすい雰囲気をつくる。教職員同士が互いの良さを認め合い、フォローし合い協働できるチームにしていく。また、業務軽減できることを工夫し、働き方改革につながり効率よく働き、心身ともに健康で、明るく前向きに職務を遂行できるようにする。